

第7期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第9回全体会 議事概要

日 時 令和8年6月17日（水）10:00～12:00

場 所 しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員 小林委員、毛受委員、伊藤委員、岩野委員、楊委員、李委員、江副委員、金委員、藤岡委員、
鈴木委員、立川委員、原田委員、センブ委員、塚本委員、南委員、宗像委員、守重委員、山口委員

18名

欠席委員 郭委員、申委員、長谷部委員、ゼヤー委員、松田委員、タイン委員、コチュ委員、叔委員、武田委員、
陳委員、ドゥラ委員、朴委員、マツラ委員、井上委員 14名

1 開会

2 報告書（素案）について

事務局から資料をもとに説明を受けた。

3 意見交換

- ・提言として「～すべき」という表現を加えるとよい。
- ・ボランティア活動に、高齢者の見守りなどの地域課題への参加も書くとよい。
- ・ボランティアを強調して書くなどの工夫があるとよい。
- ・提言の中に課題も書いてあるが、分かるようにするとよい。
- ・提言の「新宿区は多文化共生のモデルケースである」に、新宿区の魅力や特性も記述するとよい。
- ・「日本人と外国人の子どもたちは楽しく交流している」といった文章があるが、現場では楽しいだけでなく大変なこともある。
- ・地域では外国と日本の文化が混ざり合って変わりつつある。日本人は外国人と積極的に関わり、意識を変えるという文章を入れるとよい。
- ・高齢者支援では、ボランティアが参加しており、日本人と外国人が交流して互いの文化や生活を知る機会となっている。
- ・自分は外国人であるが地域の祭りなどに参加している。最初は勇気が必要だったが、地域の方からの応援が心強くて原動力になる。地域への愛着がすごく湧いてくる。
- ・新大久保インターフェスでは、外国文化の体験だけでなく、防災について学ぶことができた。体験を通じて生きていく上での大事なことを学んだ。
- ・大久保の地域センターの五月祭りで韓服の試着体験を行った。子どもから高齢者まで多くの方に喜んでいただいた。
- ・町会で花壇にお花を植える催しがあった。留学生が参加して、とてもよかった。
- ・留学生はボランティア活動に参加したくても、生活のためにアルバイトをされていて参加できない人がいる。
- ・委員意見にあった日本語学校や専門学校などのメーリングリストを作ることを下の説明文に書くとよい。
- ・SNS等の情報提供が効果的との記述があるが、多文化共生実態調査の客観的データを書く とよい。
- ・掲示板にお祭りやイベントのチラシやポスターを貼ると効果がある。
- ・地域センターではパン作りや味噌作りなども開催されている。地域センターに足を運ぶと交流につながる。
- ・外国人は目が合うと挨拶する習慣があるが、日本人は街中やマンションで目が合っても挨拶しない人がいる。

仲良くするのは大切と思うので、日本人も変わらないといけないと思う。

- ・地域交流館に外国人の高齢者も来ている。多くの方に利用していただけるとよい。
- ・日本人も外国人も住みよいまちになるよう、皆と一緒に仲良くしていきたい。
- ・路上で日本人の若者がお酒を飲んだりタバコを吸ったりしている。ルールやマナーは外国人だけの問題でなく、若者の問題だと思う。
- ・多文化共生には意識の転換が大事と思う。
- ・私の地域では外国人がイベントの企画にも参加している。
- ・交流イベントは、運営側だけでなく参加者にも意見を聞いて振り返ることで、改善点が見えてくる。

4 その他

5 閉会